

3 人間関係づくり部の取組〔自他の良さに気付き、認め合う活動を通した、お互いを つなぐ人間関係づくり〕

(1) 人間関係づくりのためのスキル学習の充実

ア 「心のきずなを深める生徒サミット」(人権集会)の開催と人権宣言作成

心のきずなを深める月間の取組の一つとして、佐敷中学校のすべての生徒が安心して学校生活が送れるように、いじめ・差別のない明るい学校づくりを推進するため「心のきずなを深める生徒サミット」の名称で人権集会を実施した。[写真3]

佐敷中学校人権宣言作成に至るまでにできるだけ多くの生徒の意見を反映した人権宣言になるように次のような流れで人権集会を実施した。

- ① 全校生徒による人権標語の表彰
- ② 佐敷中学校人権宣言の発表
- ③ 学級ごとに作成した人権宣言の発表
- ④ 人権啓発DVD「心のキャッチボール」の視聴
- ⑤ 人権擁護委員の方のお話
- ⑥ 生徒サミット実施後の感想書き

③の学級ごとの人権宣言作成については、できるだけ多くの生徒の関わりをもとに作成するために、付箋紙を利用して、学級の人権意識について（よいと思うこと、まだまだ不十分と思うことなど）の個人の考えを出し合い、班での話し合いを取り入れ、学級全体での意見交換を通して学級人権宣言を作成した。[写真4]

作成した学級人権宣言は、教室前面の壁や廊下に掲示するようにした。[写真5]

また、昨年度、この「心のきずなを深める生徒サミット」で発表してもらった学級人権宣言を参考にして、生徒会執行部で佐敷中学校人権宣言案を作成した。今年度は、全校生徒に昨年度の人権宣言案への意見を聞いて、最終的に次のような佐敷中学校人権宣言を決定した。

「一人一人の笑顔を守り、個性を認め合える佐敷中学校にしよう。」

第1条 私たちは「しない、させない、見過ごさない」のいじめ防止三原則を守ります。

第2条 私たちは思いやりの心を持ち、いじめを絶対に許しません。

第3条 私たちはみんな仲間です。仲間の輝く笑顔を増やします。



写真3 人権集会の様子



写真4 付箋紙を活用した話し合い



写真5 学級及び学校の人権宣言

イ 学級委員会によるアンケート「学級生活はどうか？」の実施と活用

学級委員会の取組として、アンケート（１２項目）を隔月に１回実施し、集計結果を帰りの会等を利用して知らせている。【写真６】

また、校内研修時に職員にも学級ごとの集計結果やこれまでの変容を提示し、学級経営に生かしてもらうようにした。アンケート項目の中でも、特に次の３点を重点項目に定め、達成率９０％以上を目標に共通理解を図っている。

- ① 学級の生活は、明るく楽しい。
- ② 級友とは、だれとでも仲良くしている。
- ③ 学級人権宣言を意識した学級生活を送っている。

アンケート結果を掲示することで、生徒の学級所属意識を高め、生徒同士のよりよい人間関係の構築に寄与できるのではと考えている。【写真７】



写真6 学級委員会の結果報告



写真7 アンケート結果の掲示

ウ 専門委員会による全員発表

毎月行われる生徒集会では、年間目標をもとに、各委員会から、全校生徒への啓発を含めた生徒発表を行っている。全校にわかりやすい発表となるよう、一人一役を担いながら、委員会の特色を活かした発表を心がけている。練習から当日の発表に至る過程において、異学年の生徒同士の関わりがよりよい人間関係を学ぶ場となった。また、その役割を果たすことで責任感や自己有用感の高まりにつながった。

【写真８】



写真8 学習委員会の発表

エ スキル学習

毎週金曜日の帰りの会の時間に、簡単なコミュニケーションをとりながらペアで活動できるスキル学習を行っている。学習をする上で、約束事をしっかりと守り行うように、全校で共通理解を図っている。相手に自分の思いを伝えることの難しさなど、様々なことを感じながら学習を行っている。【写真９】



写真9 スキル学習の様子

オ Good Job カード

生徒の自己肯定感を高めるために、カードの記入を毎週行っている。学級の生徒同士で相手を指定し、一週間を通して観察し、良いところを発見して記入するようにしている。また、職員から生徒へのカード記入は、自己肯定感の低い生徒へ意識して記入するようにしている。また、職員のカードは給食時に放送で紹介するようにしている。[写真10]



(2) 充実感や達成感を味わえる体験活動の推進

ア 「小中連携あいさつ運動」の実施

昨年度からの取組として、「小中連携あいさつ運動」を設定している。中学生（生徒会執行部の生徒）が小学校に出向いて、朝の登校時間を利用して玄関先で小学生と一緒に大きな声でさわやかなあいさつを交わすようにした。中学生が率先してあいさつをすることにより、異年齢に向けても自ら関わる力を育て、また地域に出て、活動することにより、豊かな心を育みながら発信力を高めることができた。

[写真11]



イ 芦北支援学校との交流および共同学習の実施

6月に本校の1年生と芦北支援学校中学部の生徒との第1回交流および共同学習を行った。共に活動する中で、かかわりを楽しむとともに、お互いの理解を深め合うことを目的として活動した。今回は本校から芦北支援学校へ伺い、芦北支援学校の計画に沿って、自己紹介やボールゲーム等の活動を行った。温かく楽しい雰囲気の中の活動であり、1時間という交流の時間がとても短く感じたようであった。交流後の振り返りでは、感想から思いやる態度や尊重し合う態度、相手のことを深く理解しようとする内容を読み取ることができ、生徒一人一人の豊かな心の成長を感じ取ることができた。

第2回は9月末に本校で行うこととなっており、2学期スタート時に実行委員会を設置して、生徒が考え計画した交流および共同学習を予定している。[写真12]



ウ 小中交流会の実施

佐敷小、吉尾小、大野小、そして本校の4校で連携を図り、「あいさつのできる児童生徒」「家庭学習の習慣化」「コミュニケーションのとれる児童生徒」の3点固定を共通実践とした目標連携をとおして6月23日(火)に小中交流会を実施した。中3と小1(水泳)、中3と小3(書写)、中2と小2(図工)、中2と小6(図工)、中1と小4(音楽)、中1と小5(家庭)の内容で実施した。事前指導では、「中学生の活動場



写真13 小中交流の様子

面を明確化し役割を持たせて参加する」「マンツーマンに近い形で活動ができるようにする」を念頭において行った。この事前指導の充実に心がけた結果、諸活動において中学生が主体的に小学生とかかわることができた。[写真13]

エ 保育実習の実施

総合的な学習の時間の取組として、3年生を対象に保育実習を行っている。町内の幼稚園や保育園の協力を得て、1クラスを2つに分けて、2日間(午前中)で実施する。昨年度は事前に家庭科の授業で絵本等を作成し、保育実習の中で、作成した生徒自身の絵本を使って園児に読み聞かせを行った。[写真14]



写真14 園児への読み聞かせ

その他にも、園児と一緒にレクリエーションやリレーを行うなど、体を動かす運動が主体であったが、生徒も園児も笑顔いっぱい活動していた。保育実習を通して生徒たちのいい表情を見ることができ、自己有用感の高まりを生徒の姿で感じ取ることができた。本年度は11月に行う予定である。[写真15]



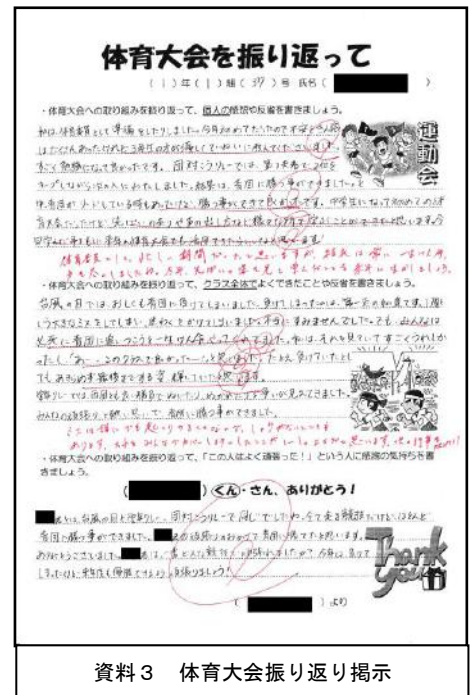
写真15 園児と一緒に活動

4 環境づくり部の取組「生徒の声、思いを大切にした、お互いをつなぐ環境づくり」

(1) 行事の振り返り（体育大会）

体育大会の後に、「個人として」「クラスとして」のそれぞれの視点から振り返りを行った。「ダンスの練習をがんばって、本番は楽しく踊れた」「負けてしまったけれど、クラスの皆で声をかけ合って練習できてよかった」など、自分や友人の頑張りを認める記述が多く見られた。また、クラスメイトに対しての感謝の気持ちを記入する欄には「演舞をやさしく教えてくれてありがとう」「(係の仕事を)一緒にがんばってできてよかったです。ありがとう！」などの記述が見られた。各担任がそれぞれの生徒にコメントを返し、皆が見ることができるよう、教室後方に掲示している。

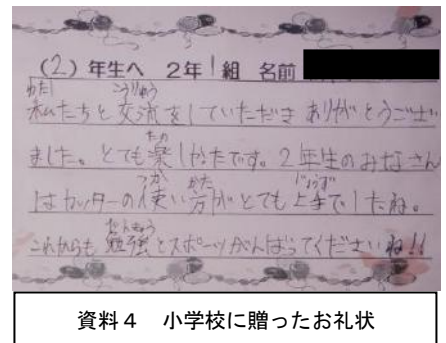
【資料3】



資料3 体育大会振り返り掲示

(2) 小中交流のお礼状の交換

6月に佐敷小学校、大野小学校、吉尾小学校との小中交流会を行い、お礼状を交換した。生徒一人一人が、一緒に学習した児童に、学習の思い出や感謝の気持ちを書いていた。各クラスで一つにまとめて、担当したクラスへ贈った。「カッターの使い方がとても上手でしたね。」「上手に教えることはできませんでしたが、しっかりと話を聞いてくれて、とてもうれしかったです。」などのメッセージを書いていた。各小学校からもお礼状をいただき、各クラスに掲示している。【資料4】



資料4 小学校に贈ったお礼状

(3) 郡市中体連大会に向けてのメッセージ交流

郡市中体連大会の前に、全校生徒でお互いに他の部活動の生徒に対して激励メッセージを書き、廊下に掲示した。直接的な関わりがない生徒もいたが、多くの生徒が各部活動の目標を参考に、「県大会出場目指して頑張ってください」「一回戦を突破できるように頑張ってください」などの温かいメッセージを書いており、その部の生徒がそれを見ることで士気を高めることができた。

また、大会が終わった後には、「応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。悔しい結果となりましたが、皆さんの応援のおかげでいつも以上の力を出すことができました」などの、激励メッセージに対しての感謝の言葉を綴っており、メッセージをとおした心の交流をすることができた。【写真16】



写真16 各部への応援メッセージ

(4) 人権教育コーナーの掲示

「心のきずなを深める月間～いじめを許さない学校・学級を目指して～」の取組の一環として、5月に生徒一人一人が人権の標語を作成したり、夏休みの課題として人権作文や人権ポスターを作成したりしている。人権標語は生徒会で優秀作品を選び、生徒サミットで表彰し、その後は人権教育コーナーに掲示している。これらの作品から「自分たちの意識や行動」「命の大切さや尊さ」「よさを認め合うことの喜び」を表したものなど、見た人が励まされるような作品が数多く見られた。校内に掲示することで、生徒同士の心のきずなを深め、いじめを許さない学校・学級づくりの啓発につなげている。[写真 17]



写真 17 人権教育コーナー

(5) 誕生日紹介の放送

本校では、放送委員会の取組の一環として、「誕生日紹介」をしている。その日の放送当番の生徒が給食時に「今日、誕生日の人を紹介します。○年○組○○さんです。おめでとうございます」という放送をする。放送が流れた後、その生徒が所属する学級で大きな拍手が起こり、温かい雰囲気に包まれる。誕生日が、休日や長期休業であった場合でも、休み明けに放送をし、年間をとおして全校生徒の誕生日を紹介するようにしている。これにより、誕生日を迎えた生徒に対して、生徒同士で、あるいは職員から、「おめでとう」という言葉かけがなされ、「自分が仲間から受け入れられている」という思いをもつことにつながっている。[写真 18]



写真 18 誕生日紹介の放送の様子

(6) 読書週間の取組

毎月4週目を「読書週間」とし、朝自習の時間に読書に取り組んでいる。読む本は学校の図書室から借りるよう呼びかけも行っている。図書室前の掲示板には生徒それぞれのおすすめの本の紹介文を掲示している。

また、月2回の保護者の方や地域のボランティアによる読み聞かせでは、昔話や絵本、長い小説の一説など様々な物語の世界や文章に触れる良い機会となっている。また、静かに話を聞いたり本を読んだりして過ごすことは、落ち着いた学校生活を送ることにもつながっている。[写真 19]



写真 19 おすすめの本紹介

（７）情報モラル教育に関する掲示

近年、情報機器を使った人権侵害がクローズアップされている。そのため、学校における情報モラル教育が重要である。本校は、携帯電話やスマートフォンなどの情報機器を利用している生徒が多いため、「ケータイやネットについて考えよう」というコーナーを設け、情報モラル教育に関するリーフレットやポスター、新聞記事を掲示している。主に情報機器の利用時間を守ることや、掲示板やコミュニティサイトなどにおけるマナーを考えさせるリーフレット等を中心に掲示している。また、「守る」という言葉をキーワードとした情報機器使用に関する「佐敷ルール」を生活委員が作成し、各教室にも掲示している。[写真 20]



写真 20 情報モラル教育に関する掲示

（８）校内環境を整えるための花壇の整備や一人一鉢の取組と保護者との連携

校内環境を整えるため、環境美化委員会を中心に花壇等への花苗の植え付けや水やり、除草作業を行っている。また、昨年 12 月には、芦北高校との交流と命の大切さを育むことを目的に「一人一鉢」の取組を行った。[写真 21]



写真 21 高校生との交流の様子



写真 22 卒業式で飾られた花

育てた花は、卒業生への感謝の

気持ち、新入生への歓迎の気持ちを表すために会場に飾ることができた。[写真 22]

また、毎週月曜日に行っている P T A の方と環境美化委員の協力で各教室へ花を飾る取組や年 2 回の P T A 主催の美化作業などは、地域の人や保護者と生徒、教職員が共に活動することで家庭との連携や愛校心を育てることができた。夏休みには、各地域で生徒が清掃活動を行い、ボランティアの心の育成を図っている。

（９）職員研修の充実

水俣病関連の学習を行うために、全職員参加の現地研修を実施し、水俣病資料館の見学や語り部さんの講話を聞くことで、人権に関する基本的認識を深める良い機会となった。また、「第三次とりまとめ」を活用した研修を効果的に進めるために、「第三次とりまとめ」の冊子を縮小印刷したものを全職員に配付し、いつでも手軽に利用できるようにした。[資料 5]



資料 5 縮小版「第三次とりまとめ」

さらに職員の人権感覚を高めるために、講師を招聘して「職員の人権感覚及びケーススタディ」をテーマにした校内研修を行った。

Ⅲ 本年度の研究による生徒の変容と成果と課題

1 生徒の変容

(1)「充実した学校生活を送るためのアンケート」から

人権教育を通じて育てたい資質・能力についての生徒の変容をつかむため、「充実した学校生活を送るためのアンケート」を平成27年3月と9月に実施した。(下表の数値は4又は3と回答した生徒の割合)

4：よくあてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：まったくあてはまらない

資料6

	No.	アンケート項目(●:重点項目)	H27年3月	H27年9月	差
知識的側面	1	相手のいやがることは、どんな理由があっても行ってはならないと思っている。	95.6	97.1	1.5
	2	人権問題について、命や人権を守るために行動してきた人々の生き方を知っている。	87.7	80.4	-7.3
	3	人権の大切さについては、憲法などに示されていることを知っている。	78.9	82.4	3.5
	4	●自分や他者の人権が侵害されたときに、どのような対処の仕方があるのかを知っている。	63.2	56.9	-6.3
	5	●人権を守るために活動している組織や機関があることを知っている。	80.7	85.3	4.6
価値・態度的側面	6	●他の人のよいところに学ぶことがある。	90.4	91.2	0.8
	7	●自分のよいところを知っている。	68.4	74.5	6.1
	8	●自分と同じように、相手のことを大切にしようとしている。	93.9	98.0	4.1
	9	●考え方や感じ方には、人それぞれ違いがあってもよいと思っている。	99.1	99.0	-0.1
	10	友達同士の間で問題が起きたときに、それに向き合って話し合うようにしている。	84.2	79.4	-4.8
	11	誰かがいじめやいやがらせなどを受けているとき、それを止めるようにしている。	73.7	73.5	-0.2
	12	自分の行動を振り返ったり、自分の言ったことに責任をもつようにしている。	88.6	90.2	1.6
	13	地域や社会の活動に協力し、よりよい社会づくりに参加しようとしている。	72.8	73.5	0.7
技能的側面	14	相手の個性やよさを認めたり、相手の考えや希望などを考えて行動することができる。	92.1	94.1	2.0
	15	誰かがつらい思いをしているとき、一緒に考えることができる。	88.6	87.3	-1.3
	16	●他の人の意見にしっかりと耳を傾けたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。	89.5	93.1	3.6
	17	他の人たちと協力して活動することができる。	94.7	94.1	-0.6
	18	差別的な行為を受けたり、うわさ話や陰口などを聞いたときに、おかしいことを指摘できる。	74.6	75.5	0.9
	19	相手と対立したとき、互いの立場を尊重して解決しようとしている。	86.8	85.3	-1.5
	20	様々な情報の中から、それが信頼できるものなのかを判断し、あつかうことができる。	90.4	93.1	2.7

20項目中12項目で4又は3と回答した生徒の割合が増加した。「人権教育を通して育てたい資質・能力」の本年度の重点項目では、「自分のよいところを知っている」が6.1ポイント、「他の人の意見にしっかりと耳を傾ける、逆に自分の考えを相手に伝える」が3.6ポイントの上昇が見られた。

しかし、「命や人権を守るために行動してきた人々の生き方」が7.3ポイント、「自分や他者の人権が侵害されたときの対処の仕方」が6.3ポイント、「友だち同士の間での問題が起きたときの話し合い」が4.8ポイントのマイナスとなっている。今後、命や人権を守るために行動してきた人々の生き方に学びながら、人権問題が起こったときの対処の方法や具体的な行動の取り方について、スキルアップを図る取組を工夫したい。

(2)「自分自身を見つめるアンケート」から

「充実した学校生活を送るためのアンケート」で生徒の自尊感情の項目の数値が低かったため、生徒の自尊感情の変容をつかむために、「自分自身

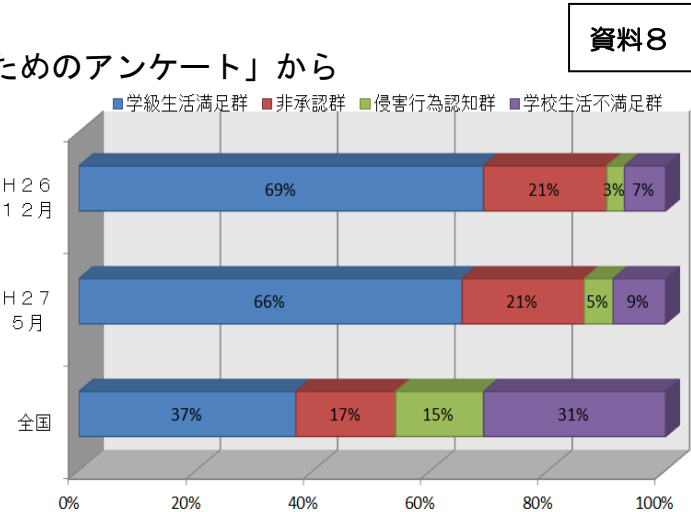
を見つめるアンケート」を平成27年5月と9月に実施した。(表の数値は4又は3と回答した生徒の割合)

					資料7
	No.	アンケート項目	H27年5月	H27年9月	差
A 自己評価・自己変容	1	私は今の自分に満足している。	62.2	69.4	7.2
	4	私は自分のことが好きである。	54.5	58.2	3.7
	7	自分はダメな人間だと思うことがある。 ◆◆反転項目◆◆	67.9	62.2	(5.7)
	10	私は自分という存在を大切に思える。	82.1	83.7	1.6
	13	私は今の自分は嫌いだ。 ◆◆反転項目◆◆	42.3	37.8	(4.5)
	16	自分には良いところがある。	75.6	78.6	3.0
	19	自分は誰の役にも立っていないと思う。 ◆◆反転項目◆◆	40.4	28.6	(11.8)
	22	私は人と同じくらい価値のある人間である。	79.5	85.7	6.2
B 関係の中での自己	2	人の意見を素直に聞くことができる。	92.9	92.9	0.0
	5	私は人のために力を尽くしたい。	82.7	84.7	2.0
	8	私はほかの人の気持ちになることができる。	77.6	79.6	2.0
	11	私には自分のことを理解してくれる人がある。	83.3	93.9	10.6
	14	人に迷惑がかからないよう、いったん決めたことには責任をもって取り組む。	86.5	86.7	0.2
	17	自分のことを見守ってくれている周りの人々に感謝している。	92.3	95.9	3.6
	20	私には自分のことを必要としてくれる人がある。	66.0	78.6	12.6
C 自己主張・自己決定	3	人と違っていても自分が正しいと思うことは主張できる。	65.4	70.4	5.0
	6	自分の中には様々な可能性がある。	63.5	73.5	10.0
	9	私は自分の判断や行動を信じることができる。	68.6	75.5	6.9
	12	私は自分の長所も短所もよく分かっている。	77.6	77.6	0.0
	15	私には誰にも負けないもの(こと)がある。	62.2	66.3	4.1
	18	私は自分のことは自分で決めたいと思う。	89.7	93.9	4.2
	21	私は自分の個性を大事にしたい。	81.4	92.9	11.5

22項目中20項目(7、13、19は反転項目のためマイナスが大きい方が自己評価が高い)でプラスとなっている。特に「A自己評価・自己変容」では、全ての項目でポイントの上昇が見られた。

(3)「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」から

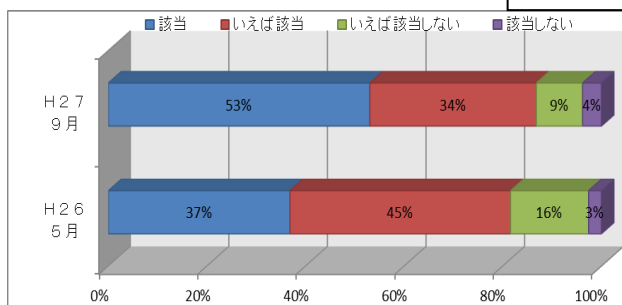
現3年生のアンケート結果を分析してみると、学級生活満足群の割合がやや減少したものの、全国平均と比べるとかなり高い。最上級生になったことで、学校のリーダーとしての自己有用感が増したことで、これまでの様々な取組の成果が現れたものと考えられる。



(4)「佐敷中学生徒アンケート」から

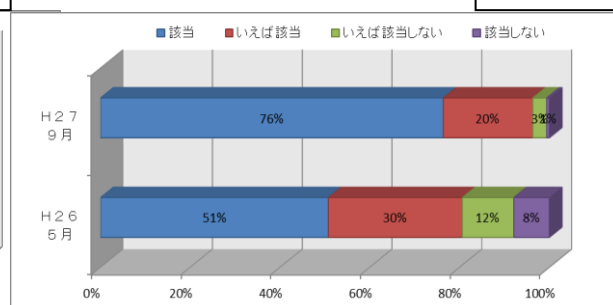
5 あなたは先生にほめられたことがありますか。

資料 9



16 あなたは地域の方々に進んで挨拶していますか。

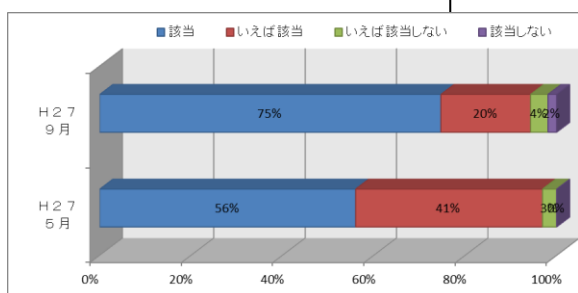
資料 10



(5)「学級生活アンケート」から

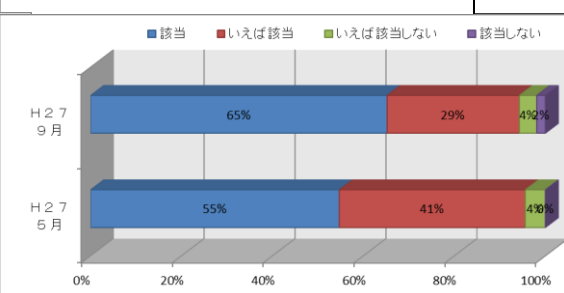
1 学級の生活は、明るく楽しい。

資料 11



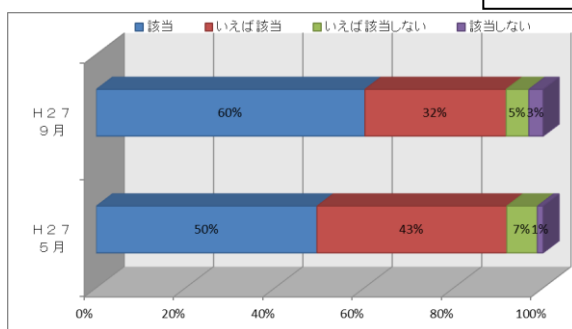
7 無言清掃は時間いっぱい行っている。

資料 12



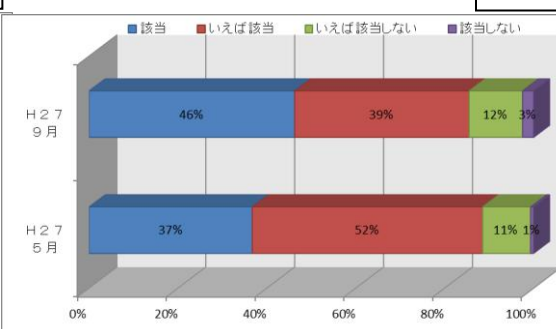
8 級友とは、だれとでも仲良くしている。

資料 13



12 学級目標や学級人権宣言を意識して、努力した。

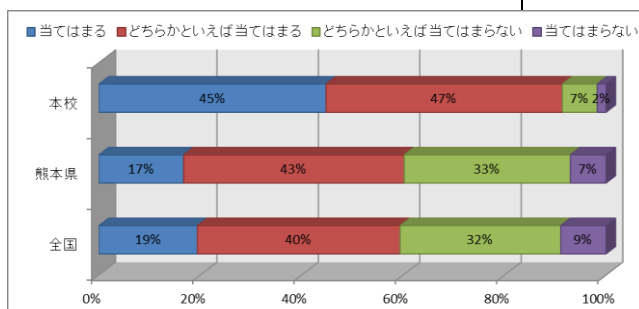
資料 14



(6)「平成27年度 全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙」より

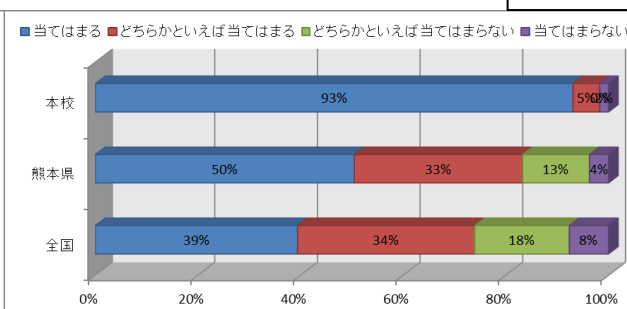
42 授業の最後に、学習内容の振り返りがあった。

資料 15



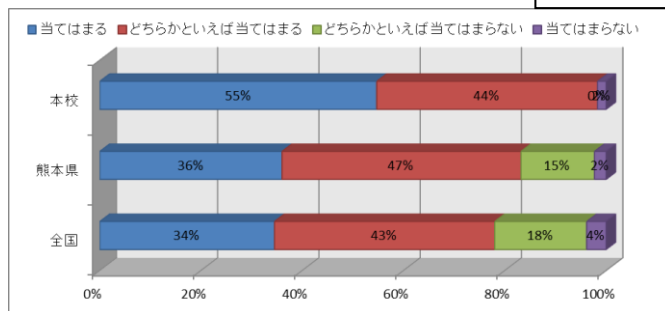
43 授業のノートに、目標とまとめを書いていた。

資料 16



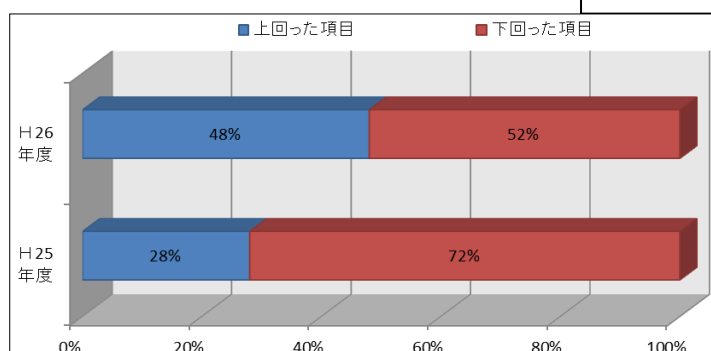
39 生徒の間で話し合う活動をよく行った。

資料 17



(7) 平成25・26年度の「県学力調査」(県平均との比較)より

資料 18



2 成果と課題

(1) 仮説①(授業づくり)について

「自尊感情が高まり、お互いを認め合う態度や学習意欲の向上が見られ、確かな学力と豊かな人間性が身についたか。」

<研究の成果>

- 「先生からほめられたことがある」生徒の割合が増加した。教師の人権教育に対する意識が高まり、生徒の良いところを認めようと生徒の発言や行動を受容的・共感的に受け止めたことにより、生徒の自尊感情や自己有用感が高まってきている。[資料9]
- 授業の中での目標(めあて)とまとめの提示、学習内容の振り返り、生徒同士の話し合い活動においては、以前よりも意欲的に行われるようになった。[資料15・16・17]
- 「人権が尊重される授業づくりの視点例」を参考に作成した「授業デザイン」を全職員で共通実践したことにより、生徒一人一人を大切にする具体的な視点や手立てを共有することができ、人権教育の視点に立った授業や学習活動づくりを行うことができた。
- 「学習者五か条」を意識して授業を受ける生徒が増加していることから、生徒の学習意欲の高まりを感じる。また、標準学力調査や県学力調査の結

果から、徐々に学力が向上してきている。[資料 18]

＜今後の課題＞

▲発表しやすい雰囲気づくりや机間指導等の取組を行ったが、生徒が自信をもって自分の考えを発表できるところまでは十分に高まっていない。今後も、安心して発表できる人間関係づくり、雰囲気づくりの工夫を行っていく必要がある。

(2) 仮説②（人間関係づくり）について

「適切なコミュニケーション能力が高まり、他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性が育まれたか。」

＜研究の成果＞

○授業や行事、学校生活全体で生徒同士をつなぎ、自他の良さを認め合う機会が増えたことにより、学級の中での良好な人間関係を築くことができた。

[資料 11・13]

○「心のきずなを深める生徒サミット」や「人権宣言作成」などの生徒会（委員会）や学級を生かしながら生徒一人一人の人権感覚を高めるための取組を行ってきたことにより、積極的に目標達成にむけて努力しようとする生徒の割合が高くなった。[資料 14]

○生徒会テーマである「地域への発信」を生徒自身が意識したことにより、地域の清掃ボランティアや行事に参加する生徒が増えた。それに伴って、地域の方々にあいさつする生徒の割合が増加した。[資料 10]

＜今後の課題＞

▲良好な人間関係が築けているにもかかわらず、お互いに自分の思ったことを素直に伝えることが十分にできていない生徒が多いので、更に人間関係づくりのスキル活動の取組等を工夫していく必要がある。

(3) 仮説③（環境づくり）について

「お互いを認め、大切にしようとする雰囲気が醸成され、自己肯定感が高まったか」

＜研究の成果＞

○Good Job カードやいろいろな活動後の振り返り等の自分以外の他者のいいところを認めて書いた掲示物を見ることで、自己肯定感や他者理解の高まりにつながった。

○「みんなのために」「誰かの役に立ちたい」など、自分の行動を肯定的にとらえる生徒が増加してきた。そのことが、無言清掃に時間いっぱい取り組んだり、学校行事に積極的に参加したりする生徒の増加につながった。

[資料 12]

○「花ボランティア」や「読み聞かせ」など、地域の方々と協力して取り組む活動を継続して行うことにより、自分以外の人への感謝の心を持つなど自尊感情を高めることにつながっている。

＜今後の課題＞

▲教室環境をはじめ、校舎内のいろいろな掲示物の工夫をしてきているところであるが、さらに温かみがあり、それを見ることで生徒一人一人が勇気をもらうような掲示物を今後も考えていきたい。

（４）「授業づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させた取組について

＜成果として考えられる生徒の姿＞

○中体連陸上大会に向けての練習に多くの生徒が意欲的に取り組んだり、自主的に応援リーダーに立候補して生徒全体をまとめたりする姿が見られた。

＜連動させた取組＞

授業づくりにおける生徒の発言を引き出す工夫や生徒同士のつながりをつくる取組を継続して行ったことで、まわりを大切にしながらも自分の意見を言える生徒が少しずつ育ってきたためと考える。

人間関係づくりにおける友だちの頑張りを認める取組や、環境づくりにおける生徒の思いを大切にした掲示等の取組を行ったことで、友だちの頑張りに自分も応えたいと思える生徒が育ってきたためと考える。

＜今後の課題＞

▲授業の中で自信をもって発表できない生徒が多かったため、スキル学習等に取り組んできたが、まだ顕著な変容が見られていない。今後も根気強く取組を継続し、生徒の自信を高めていきたい。

（５）研究全体を通して

これまでの取組により、学校生活に満足感を感じたり、相手のことを考えた言動を心がける生徒が増えてきた。また、職員間においても授業中や学校生活で気付いた生徒の様子について話すことが多くなった。それに伴い、生徒と教師との会話が増え、生徒をほめる機会も多くなってきた。このことは、すべての教育活動で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を意識し、全職員で目標とする生徒の育成に取り組んできた結果である。特に授業においては、「人権が尊重される授業づくりの視点」を明らかにし、人権が尊重される環境づくりを基盤として、「生徒一人一人を大切にした授業デザイン」を共通して取り組んだことにより、人権が尊重される人間関係づくりを有機的につなげることができてきた。

しかし、生徒の中には、自分に自信がもてなかったり、自分の思いを伝えることが苦手であったりするところがまだまだ見受けられる。これまでの自分も他の人も大切にしている取組をさらに進め、「自信に満ちた生徒の笑顔」をめざした実践を積んでいきたい。

おわりに

昨年度より、文部科学省及び熊本県教育委員会の研究指定を受け、人権教育の研究推進に努めてきました。

この２年間で、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」に示されている学校における人権教育の目標に向け、その具現化のために、人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を連動させた「授業デザイン」の取組を中心に実践してまいりました。どのクラスのどの教科においても一人一人を大切にしたい同じ学びを行うことで、学びの場に安心感をもてるようになりました。多くの人との交流により、自分の良さをほめられ、人の良さを認められるようになり、求めていた「自信に満ちた生徒の笑顔」が多く見られるようになりました。

しかし、本校の研究はまだ課題が多く残されています。今回の研究の成果と課題を踏まえ、全職員でさらなる人権教育の推進に取り組む所存です。今後とも本校の教育への御支援、御協力をお願いいたします。

これまで、本研究を様々な角度から支えていただきました文部科学省、熊本県教育委員会、芦北町教育委員会をはじめ、御指導・御助言いただきました多くの先生方、関係各位に心より感謝し、御礼申し上げます。

【参考文献】

文部科学省	平成２０年	人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕
文部科学省	平成２０年	中学校学習指導要領
熊本県教育委員会	平成２４・２５・２６年度	人権教育推進資料
八代市立代陽小学校	平成２３・２４年度	人権教育研究指定校研究発表会 研究紀要
宇土市立住吉中学校	平成２４・２５年度	人権教育研究指定校研究発表会 研究紀要
荒尾市立平井小学校	平成２５・２６年度	人権教育研究指定校研究発表会 研究紀要

【研究同人】

[平成２７年度]

園村 静夫	浏览 竜一	蒔平 三和	山崎 知博
谷口 美加	澤江 匡代	上田 幸秀	渡邊 康司
志水 智恵	矢野 光男	中村 和宏	後藤 英治
山下 祐一郎	松岡 秀治	前村 麻梨子	泉保 香
山田 真祥子	前田 輝久	小島 幸博	米村 彩美
山崎 由里子	田中 達朗	平江 怜奈	倉本 由紀子
木川 梢	山本 涼子	蓑田 尚子	ニコラス・バーン
早川 美津恵			

[平成２６年度]

吉海 達也	寺井 裕加里	岩田 聡	岩野 満
廣井 智之	宮島 恵子		